

「日本一の元気を暮らしの豊かさに」

1. はじめに

愛知県においては、中長期的な観点から愛知の進むべき方向性を明らかにすべく、平成26年3月に「あいちビジョン2020」を策定いたしました。

グローバル経済の進展や新興国の台頭などにより、世界規模での大都市圏間競争がますます激しさを増しています。わが国が本格的な人口減少・高齢社会に突入する中であって、高いポテンシャルを持つ大都市圏が日本全体の発展をリードし、世界との競争に打ち勝っていかなければなりません。

そうした中で、2027年度に予定されているリニア中央新幹線の東京－名古屋間の開業は、わが国の大都市圏構造を変える大変インパクトの大きなものであり、これを最大限生かしていく必要があります。

一方で、本県の人口も、まち・ひと・しごと創生に係る愛知県人口ビジョン案において、2020年頃をピークに減少に転じると推測しており、今後高齢化が急激に進行してまいります。また、東日本大震災の発生を機に防災やエネルギー面などで的大幅な見直しが迫られる中で、これらの課題にしっかり対応しながら、安心安全で持続可能な社会を築いていかなければなりません。

2. 世界の中で存在感を発揮する中京大都市圏の実現に向けて

リニア中央新幹線の開業により、東京－名古屋間の所要時間が、現在の約95分から40分へと大幅に短縮されることで、地域の強みを生かした戦略的な地域づくりが求められています。名古屋駅は、リニアと東海道新幹線の二つの新幹線をはじめ、

鉄道やバスなど様々な交通機関が結節する、わが国有数の巨大ターミナル駅としての役割を担うため、交通機関の乗換利便性を向上させるスーパーターミナル化が不可欠であります。乗換利便性の向上について、交通事業者や名古屋市などと連携し、地域一丸となった取組みを進めていくとともに、首都圏との時間距離の短縮効果を全県的に波及させるよう、既存鉄道路線の直通化などにより、名古屋都市部からの40分圏域の拡大をめざしていきます。

さらに、中京大都市圏域内の結びつきを強め、後背圏の拡大をめざし、新東名、新名神高速道路などの広域高速道路網を最大限活かした、都市圏内の道路網の充実など総合的な交通ネットワークのあり方について、多角的見地からの検討を進めていきます。

このような取組みにより、都市機能、生産機能、交通基盤などのさらなる充実・強化を図ってまいります。

3. 安心安全で持続可能な社会を築くために

今後30年以内に70%の確率で発生するといわれる南海トラフ巨大地震に備え、東日本大震災の教訓を踏まえたハード・ソフトの様々な地震・津波対策を組み合わせ、大規模災害時の被害を最小化する「減災」に取り組んでいくことが求められております。

地震による建築物の倒壊等から県民の生命や財産を守る住宅や学校施設の耐震化の推進に加え、大型台風や局地的な大雨に伴う洪水、高潮、土砂災害など、近年高まる災害リスクに対応できるよ

愛知県知事 おおむら 大村 ひであき 秀章



う、河川改修や海岸保全施設、土砂災害防止施設などの整備を推進し、また、市街地の下水道整備や、市街地の進展により低下した流域の保水・遊水機能の向上などの取組みを進めていきます。

さらに、わが国を代表する厚い産業集積を有する本県において、大規模災害の発生による経済の停滞を最小化し、早期の復旧・復興の実現に向け、より効果的な災害対応が期待される企業間連携なども視野に、「あいちBCPモデル」の普及を図ってまいります。平成27年3月には、港湾関係者が連携・協調し、発災後の避難誘導や港湾物流機能の早期復旧を効率的に行うことを目的として港湾BCPを策定いたしました。

一方、戦後の復興期から高度経済成長期にかけて学校、公営住宅などの公共施設や道路、上下水道などの社会インフラが集中的に整備されており、今後、これらの施設の老朽化率が一段と高まることとなります。財政状況が厳しい中で、公共施設や社会インフラの老朽化に伴う維持管理・更新費の増大も見込まれます。

そこで、本県では平成27年3月、愛知県公共施設等総合管理計画を策定し、施設の老朽化対策を軸とした中長期的な県有施設の利活用の最適化に係る基本的な方向性を取りまとめました。急速に老朽化する県有施設や社会インフラについて、長寿命化の取組みやICT等の最先端技術を活用した点検・診断などにより、コスト縮減を図り、予防保全型管理を基本とする戦略的なアセットマネジメントを展開してまいります。

安心安全で持続可能な社会を築くために、これらの取組みにしっかり対応してまいります。

4. おわりに

「あいちビジョン2020」の最大のテーマは、来たるべきリニア時代を見据えた大都市圏づくりであり、今後、リニアの開業によって生まれる大交流圏の中で産業の革新・創造拠点としての役割を担いながら、国内外から人、モノ、カネ、情報を呼び込む存在感ある中京大都市圏づくりを進めてまいります。

基本目標を「日本一の元気を暮らしの豊かさに」と定め、県民のみなさまを始め、国、市町村、企業、各種団体など、関係の方々とともに、新しい愛知の地域づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、本年、9月12日から11月8日まで、愛知万博10周年を記念し、「全国都市緑化あいちフェア・花と緑の夢あいち」を開催いたします。愛知万博が開催された愛知県長久手市の愛・地球博記念公園をメイン会場に、万博の理念を継承し、思い出を振り返るとともに、フェアの中心的行事である「全国都市緑化祭」や、「緑のある暮らしの明日を愛知から」をテーマとした様々な展示やイベントを実施してまいります。今回のフェアでは、スタジオジブリとタイアップし、特別企画として、「思い出のマーニー×種田陽平展」と「ジブリの大博覧会展」を同時開催します。全国初公開の「ジブリの大博覧会展」では、「風の谷のナウシカ」や「となりのトトロ」から最新作まで、スタジオジブリの設立から30年間の貴重な資料を一挙公開します。多くの方のご来場をお待ちしております。